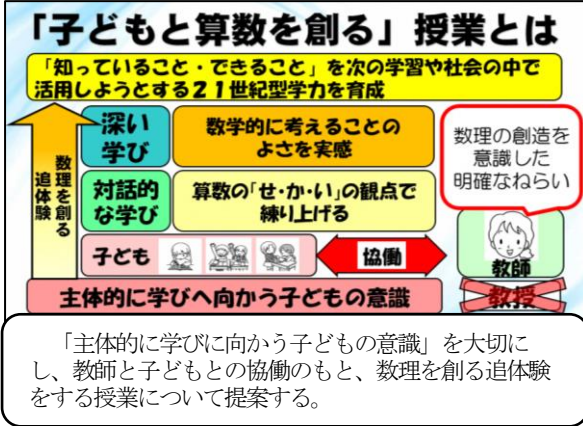


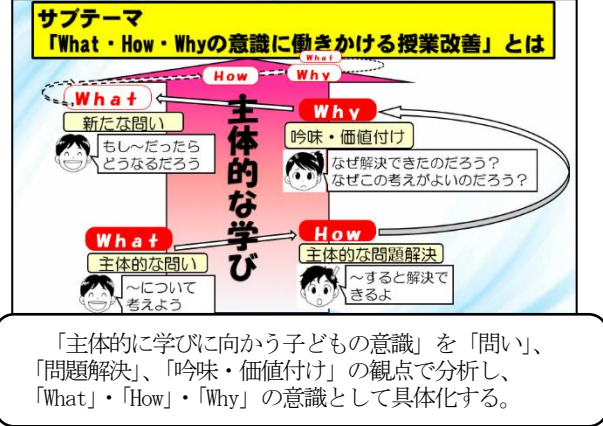
1 研究主題

子どもと算数を創る  
 —子どものWhat・How・Whyの意識に働きかけた授業改善—

(1) 目指す授業像



(2) サブテーマの概要



2 研究の具体

(1) 子どもの実態と向き合って

「問いかけに反応」、「グループ協議」、「ノート指導」の3観点で子どもの実態を分析し、指導に活かす。

(2) 主体的に学びに向かう子どもを育てるために

① 学び方の視点から

「問いかけに反応」、「グループ協議」、「ノート指導」の3つを学校の重点目標に位置付け、PDCA サイクルで学び方を共有化し、主体的に学びに向かう子どもの育成に努めた。

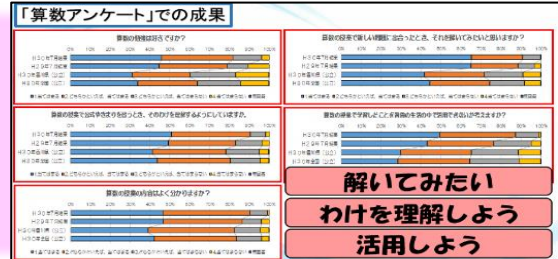
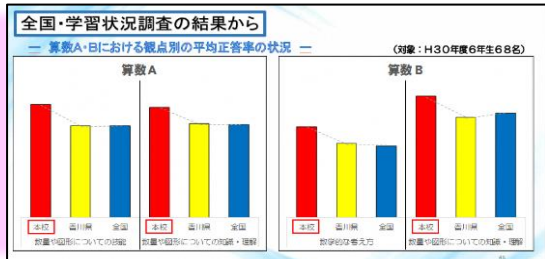
② 教材研究の視点から

算数科における主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、子どもの「What」・「How」・「Why」の3つの意識を高める手立てを研究した。

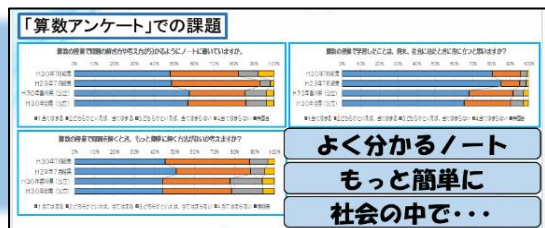


3 研究の検証及び改善の手立てについて

(1) 成果：全国学力・学習調査の結果や意識調査から、具体的数値で成果が見られた。また、研究会当日のアンケートからも子供の姿で評価を得た。



(2) 課題：意識調査や研究を通しての反省から、以下のような課題が見られた。



課題 —研究を通して—

学力の2極化傾向  
 アイディアを交流させ「見方・考え方」を鍛える時間、活用を通して納得・定着を促す時間と、ねらいを明確に、授業づくりに取り組む必要がある。

A・B両タイプの長所を取り入れた新たな授業展開の工夫  
 Aタイプで解決のアイディアを創った後、Bタイプで図を提示し、その意味理解を深める等、柔軟な授業展開も考えられる。